

文化財 だより

NO.12
平成25年度

発行 ● 太田市教育委員会 発行日 ● 平成26年6月30日 編集 ● 太田市教育委員会文化財課 (群馬県太田市粕川町520 TEL 0276-20-7090 FAX 0276-52-6080) · 太田市教育委員会歴史施設課 (群馬県太田市太田市世良田町3113-9 TEL 0276-52-2215 FAX 0276-52-2208)



持国天立像



増長天立像

新たに8件の 太田市指定重要文化財!

平成25年5月29日、新たに8件の文化財が

太田市指定重要文化財に指定されました。

○明王院の木造二天像 (持国天立像・増長天立像)

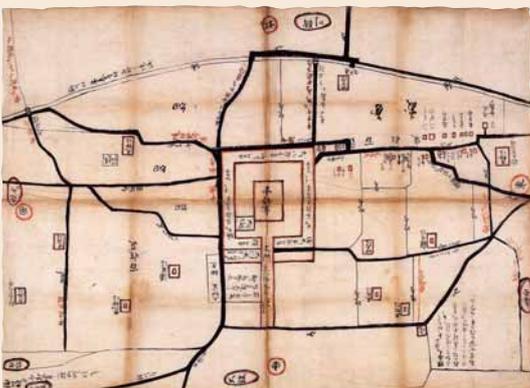
明王院の参道にある二天門に安置されています。ヒノキ材による寄木造りで、像高は持国天が118.6cm、増長天が119.2cm。制作年代は南北朝時代と考えられています。群馬県内でも南北朝時代までさかのぼる二天像は他になく、造形的にも優れ、像の構成もしっかりしており、南北朝時代の特徴をよく示す彫像です。

○紙本墨書安養寺村絵図

この絵図は安政2年(1855)に描かれたもので、中世の館(安養寺館跡)から寺院(明王院安養寺)へ転化したことがわかる重要な絵図です。

安養寺館跡は、「長楽寺文書」「正木文書」などによると新田義貞が死後、「安養寺殿」と呼ばれていたことから、新田義貞の館跡の可能性が高いとされています。

安養寺館跡は、新田荘のなかでも中心的存在であり、二町四方の規模を有した総領家クラスの館跡で、現在大部分は明王院の境内となっています。





太田市指定重要文化財の紹介



●『上野国志』稿本及び毛呂権蔵の著作類 附写本類一式

「上野国志」(安永3年著・1774年)は、群馬県内全体のまとめた歴史地理書や風土記がないことから、毛呂権蔵が30年間の歳月をかけ、古今の書籍にあたり、県内各地を実地踏査した群馬県内全般にわたる歴史書であり、高い評価を受けています。また、「上野国志」稿本は、毛呂権蔵の自筆本になります。

毛呂権蔵写本類は、印刷物やコピーのなかった時代の唯一の記録化の手段であり、「上野国志」を著すための権蔵の勉強の証でもあり、写本類も歴史研究のための第一級の資料になります。



●長楽寺の塑造開山栄朝禅師坐像

長楽寺の開山である栄朝禅師の彫像です。総高122.2cm、像高81.4cmの塑造(そぞう:粘土などで造形する技法)による塑像で、制作年代は鎌倉時代前期と考えられています。

現在頭と体の部分は塑造ですが、両手および膝から下の部分は後世の補修により木造になっています。また、膝下の木造部分の裏側には長楽寺第38世義運によって享保18年(1733)に行われた修理時の記録となる墨書銘があり、現状を知る貴重な資料となっています。

群馬県内で鎌倉期の塑像としては唯一のものであり、現存する中世塑像としてもっとも古い像に位置づけられるものです。



●長楽寺の木造達磨大師坐像

この像は、長楽寺の開山堂に安置されていた、寄木造り、像高87.3cmの木像です。制作年代は衣文の様式などから室町時代と考えられています。

朱色の衣を頭から両肩に前身を覆い、顔面および胸部を表わし、大きく目を見開いて達磨の強い意志を表わしています。

我が国の達磨の立体像の中では最古例に属するものと思われ、美術史的にも貴重な遺品といえます。



●長楽寺の木造天海大僧正坐像

この像は、長楽寺の開山堂に安置されていた、ヒノキ材による寄木造り、像高58.9cmの木像です。制作年代は江戸時代初期と考えられています。

天海は諡号を慈眼大師といい、会津出身の天台宗の僧で、徳川家康の知遇を受け、幕府内外の政務にも参画し、家康から祖先の菩提寺である長楽寺の再興を命じられました。天海は臨済宗を天台宗に改め、衰微していた寺の興隆に尽くしました。

●長楽寺の木造天海大僧正坐像(伝円義僧正坐像)

この像は、長楽寺の開山堂に安置されていた、ヒノキ材による寄木造り、総高103cm、像高68.7cmの木像です。制作年代は江戸時代初期の寛永19年であることがわかっています。

本像は長楽寺を臨済宗から天台宗に改宗した天海の弟子で、長楽寺第29世円義の像と伝えられてきましたが、平成15年の調査で胎内と畳座裏から墨書銘が見つかり、寛永19年9月に東叡山寛永寺大仏師慶雄による天海大僧正の寿顔（生前の顔をうつす）像であることが判明しました。



●長楽寺の木造伝一翁院豪坐像

この像は、長楽寺の開山堂に安置されていた、ヒノキ材による寄木造り、総高123.5cm、像高86.2cmの木像です。制作年代は江戸時代初期と考えられています。

一翁院豪は寛元2年（1244）宋に渡り、帰朝後の正嘉2年（1258）長楽寺第3世住職となりました。以来24年間住職として務め、弘安4年（1281）長楽寺で没し、朝廷より円明仏演禪師の諡（おくりな／生前の功績をたたえて贈る名号）を贈られた高僧で、長楽寺境内にある国指定重要文化財の宝塔の造立者でもあります。



史跡 かな **金山** やま **城跡** じょう **跡** あと の最新情報

- 調査場所 太田市金山町
- 調査期間 平成25年11月12日～平成26年3月20日
- 調査面積 約96㎡
- 調査の概要

今年度の調査は、西側の曲輪と排水路との関係や調整池への水口を確認するための調査を行いました。その結果、調整池の全容と水口の位置や構造、さらに法面に石積みを施した上段曲輪の東端部の様相を明らかにすることができました。

上段曲輪の東側には、排水の流れの勢いを弱め、やわらげる調整池が設けられています。岩盤（凝灰岩）の節理面を上手く利用して階段状に削り取り、船のドックを思い浮かべるような形状をしています。東側3分の2は岩盤で、その幅は約6mあります。この調整池には、西側を石組みの壁、東側を岩盤に画された排水路を通して水が流れ込み、2.5mの比高差を岩盤を伝って流れ落ちます。

大手虎口から月ノ池下（南）の坂道を西に下った道は、どこで南へ折れるのかが今年度の課題でした。今までの調査では上段・下段曲輪の東側を排水路と並行して設けられていたと想定してきました。しかし今年度調査で、調整池の範囲と上段曲輪東端部の位置関係から、大手道を設ける余地のないことが判明しました。このことから、大手道は上段・下段曲輪の中を通過していた可能性が高くなってきました。



調整池



矢穴痕跡のある金山石

今回の調査で、転石の一つに、明らかに石を割ろうと意図した矢穴痕跡があるのを発見しました。金山城跡では、三ノ丸南法面石垣に次いで2例目の発見となります。この金山石は意図したようには割れずに諦めたものですが、金山城にも、矢割りが行われていたことを証明してくれました。



現地説明リーフの金山城跡縄張図



史跡新田荘遺跡江田館跡 内容確認調査

- 調査場所 太田市新田上江田町
- 調査期間 平成25年7月30日～平成25年10月18日
- 調査面積 約586㎡
- 調査方法 25年度の調査は、主郭の中央部、南辺土塁の内側、南面の開口部（土橋部）の3ヶ所にトレンチを設定し、掘削機で表土を除去した後、人力による土層・遺構の確認調査を行いました。
- 主な出土品 縄文期の土器と石器、古墳時代の土器と埴輪の破片、中世・近世の土器・陶磁器片等
- 調査内容 本年度の調査は、主郭部（本丸部）に1ヶ所（22×16m）、南面土塁の内側に1ヶ所（10×9m）、南面土塁の開口部に1ヶ所（16×9m）の、計3ヶ所のトレンチを設定しました。
なお、3トレンチについては次年度以降に見送りました。

1トレンチ

主郭部中央部の西寄りに位置し、確認された遺構は、柱穴約200本、土坑22基、溝4条、方形周溝墓1基で、その他、遺構詳細が不明ながら古墳2基がみられました。方形周溝墓と古墳は古墳時代のものであり、溝や土坑の中には近世とみられるものもありました。それ以外の大部分は中世の城館に伴うものとみなされました。なお、1トレンチには、3間×4間の大型建物などが、新たに明確となり、さらに南北走向の柱穴列が、建物群の西側にも存在することが分かりました。



1トレンチ：南東方向から

2トレンチ

主郭内部に南北に走る溝の走行を確認すること、南面土塁とそれに伴う溝を確認すること等をねらって設定しました。確認された遺構は、柱穴約45本、溝4条、土坑5基、井戸3基です。土塁の規模や構築法が判明しただけでなく、土塁の内側に沿って走る溝（1号溝）、土塁の直下に位置する（4号溝）が見つかりました。



2トレンチ：南東方向から



史跡金山城跡 現地説明会 (平成26年3月16日)

説明会当日は、天候に恵まれ暖かい1日でした。開始の午前10時から午後3時の受付時間中、見学者が途絶えることなく訪れ、曲輪と排水路の関係や調整池等の解説を熱心に聞いていました。

昨年度の成果とあわせ、新たに見つかった幅約6m、比高差2.5mの調整池の中まで足を伸ばし、興味深く240名の方が見学しました。



調整池の説明



矢割りの説明



門の遺構の説明

金山城保存会

金山城保存会は、主に史跡の草刈りや清掃活動を中心とした環境美化活動等を行っています。また、来訪者に対しての案内を行うボランティアガイドを実施し、平成25年度は、21団体・約740人の方々に金山城のガイドを行いました。

会では、会員の研鑽を高めるために毎年研修会を行っています。本年は、約30名の会員が会津城等の見学や新人研修もかねた金山城の研修と学習会に出席しました。そして、研修の成果発表として、史跡金山城跡ガイダンス施設で城跡を巡った写真展を開催しました。



会津城の見学



第1回 金山城保存会「城跡を巡る」ポスター



史跡金山城跡来訪記念投句選考結果

選者：太田俳句協会

第一期

(平成23年12月1日から平成24年2月28日分)

◎一般の部

○特選 (該当なし)

○佳作 (3点)

・「騎馬武者の房にも似たり散り紅葉」

詠者 栃木県足利市 丸山乃里子

・「枯葉散り仁王立する大櫓」

詠者 群馬県太田市 椎名ヒロ子

・「本丸に今日の落葉を踏みにけり」

詠者 栃木県栃木市 五十畑絢子

◎ジュニアの部

○特選 (該当なし)

○佳作 (2点)

・「城あとを見つめて思う過去の時」

詠者 群馬県太田市 須永 栞

・「金山を歩けばわかる歴史跡」

詠者 群馬県太田市 初山遥希

第二期

(平成25年3月1日から平成25年5月31日分)

◎一般の部

○特選 (該当なし)

○佳作 (3点)

・「そよ風が古城の跡に春を呼ぶ」

詠者 群馬県太田市 木村昇司

・「鶯に義貞偲ぶ曲輪跡」

詠者 埼玉県久喜市 関口康代

・「城跡にこぶしを握るワラビかな」

詠者 三重県松阪市 門暉代司

◎ジュニアの部

○特選 (1点)

・「初夏の風遠くに見ゆる我が母校」

詠者 群馬県太田市 高橋佑輝

○佳作 (1点)

・「城跡の歴史ふみゆく石畳」

詠者 静岡県富士市 塚本真未

第三期

(平成25年6月1日から平成25年8月31日分)

◎一般の部

○特選 (該当なし)

○佳作 (2点)

・「日の池の主の目覚め牛蛙」

詠者 埼玉県熊谷市 平山三郎

・「山峰を蹴り立ち上る初夏の雲」

詠者 群馬県太田市 池上雅夫

◎ジュニアの部

○特選 (該当無し)

○佳作 (3点)

・「梅雨入りの晴れ間に見える富士重工」

詠者 群馬県太田市 高橋佑輝

・「なつやすみかなやまさんぼきたんだよ」

詠者 群馬県太田市 井上一矢

・「金山城暑き日せみの応援団」

詠者 群馬県太田市 齋藤翼羽

第四期

(平成25年9月1日から平成25年11月30日分)

◎一般の部

○特選 (該当なし)

○佳作 (2点)

・「日の池や命を宿す秋あかね」

詠者 群馬県太田市 竹内 正

・「秋霖の中に寂たり大けやき」

詠者 神奈川県横浜市 池田佳子

◎ジュニアの部

○特選 (1点)

・「雨の日の山から見おろす霧の町」

詠者 埼玉県熊谷市 釜谷 基

○佳作 (2点)

・「かなやまのそよかぜすうとおいしいな」

詠者 群馬県前橋市 牛込結望

・「金山はみんなが通う散歩道」

詠者 群馬県太田市 永田若菜



おおたんの史跡探検スタンプラリー

- と き 平成25年7月20日（土）から
平成25年8月31日（土）まで
- 参加申込者数 3,431人
- 修了認定者数 2,105人
- 修了記念品 よしさだくんのマグネットク
リップ（文化財課特製）



太田市では、市内に数多く存在する貴重な歴史遺産を正しく理解し、より身近に感じていただくため毎年小中学校の夏休み期間を利用して「おおたんの史跡探検スタンプラリー」を実施しています。

参加者はスタンプ帳を手にし、ガイドマップをたよりに市内各地にあるスタンプを設置した22箇所の史跡や資料館を巡り、17箇所以上のスタンプを押印することができた参加者を修了者として認定し、記念品を贈呈しました。



文化財めぐり

- テーマ ぐんま世界遺産候補地をめぐる
- と き 平成25年12月7日（土）
- ところ 田島弥平旧宅（伊勢崎市）、
たがやましやあと とみおか
高山社跡（藤岡市）、富岡
せいしじょう
製糸場、群馬県立自然史博
物館（富岡市）
- 参加者 38人

今回は、「ぐんま世界遺産候補地をめぐる」をテーマとし、県内の関連文化財を見学しました。市民の関心も非常に高く、定員の4倍の応募をいただきました。

田島弥平旧宅、高山社跡、富岡製糸場の各施設とも、ガイドの方が非常に熱心に説明してくださり、見学者も興味深そうに耳を傾けていました。最後に群馬県立自然史博物館を自由見学しました。群馬県の世界遺産候補地をめぐる充実した見学となりました。



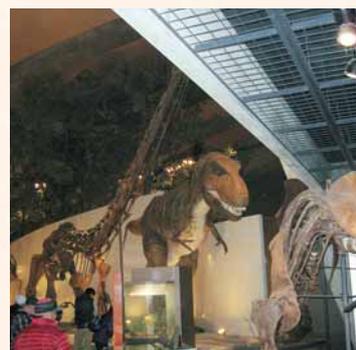
田島弥平旧宅



高山社跡



富岡製糸場



群馬県立自然史博物館



なかしまちくへいてい 中島知久平邸特別公開

- **と き** 平成25年9月20日（金）
平成25年9月21日（土）
- **参加者** 3,456人

太田市指定重要文化財の中島知久平邸は、地域交流センターとして開館を目指しさまざまな整備工事を進めておりましたが、安全面の点から常時

の一般公開は実施しておりませんでした。しかし、公開を望む声も多いことから、本格的な整備工事に着手する前の2日間限定して、特別公開を実施しました。駐車場の駐車可能台数も少ない中、地域の皆様のご協力により市内外から多数の見学者が訪れました。



公開の様子（玄関）



公開の様子（客室棟）

中島知久平邸整備事業

太田市指定重要文化財の中島知久平邸は、地域交流センターとして開館を目指しさまざまな整備工事を進めておりましたが、平成25年度は次の整備工事等を実施しました。

玄関棟耐震補強工事

地域交流センターとして活用する玄関棟について耐震補強工事・電気設備工事・消防設備工事を実施。

- ・ **期間**：平成25年9月13日～平成26年3月20日

庭園整備工事

玄関棟西側は化粧砂利再敷設、建物南側は芝生張り、建物北側については砂利敷設。

- ・ **期間**：平成25年11月27日～平成26年3月27日

内堀・外堀改修工事

内堀は大規模改修し、外堀は瓦の葺き直しまたは鉄板による養生措置。

- ・ **期間**：平成25年12月27日～
(平成26年度への繰越事業)



玄関棟耐震補強



庭園整備



文化財模擬火災訓練

- とき 平成26年1月26日（日） 午前10時～
- ところ 正法寺（脇屋町）

昭和24年1月26日、国宝の法隆寺金堂壁画が焼失したため、毎年1月26日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動が実施されています。太田市でも、毎年「文化財模擬火災訓練」を実施しています。

今年度は、脇屋町の正法寺で実施しました。正法寺では聖観音像が県指定重要文化財に、仁王門並びに仁王尊が市指定重要文化財に指定されています。

訓練は本堂より出火という想定で開始され、消防本部・消防団・関係者の協力のもと、初期消火作業、文化財の持ち出し、インパルス消火銃の使用、一斉放水などの訓練が行われました。



インパルス消火銃



一斉放水

説明板・標識柱の設置

- ・国指定史跡「高山彦九郎宅跡附遺髪塚」（細谷町）の説明板が傷んでいたため、新しく設置し直しました。
- ・国指定史跡「上野国新田郡庁跡」（天良町）に説明板と標識柱を設置しました。
- ・「石田川遺跡」（米沢町）の説明板をふれあい農園に設置しました。
- ・「下宿遺跡」（東金井町）の説明板を東金井工業団地南公園に設置しました。



高山彦九郎宅跡附遺髪塚



石田川遺跡



上野国新田郡庁跡



下宿遺跡



に っ た ぐ ん が は っ く つ ち ょ う さ

新田郡衙発掘調査

- 調査場所 太田市寺井町・新田小金井町地内
- 調査期間 平成25年10月1日～平成26年2月28日
- 調査面積 1000㎡

新田郡衙の発掘調査では、郡衙の北と東を区画する溝（堀）の続きを確認したほか、正倉跡を2棟見つけることができました。また、郡衙南エリアでは布掘り基礎を持つ建物跡が確認され、郡庁の南にも古代の役所跡に関連する建物があった可能性ができました。



見つかった正倉跡の礎石（根石）（北東から）



郡衙北で見つかった溝（堀）（南西から）



郡庁南で見つかった建物跡（東から）

さん し ご う どう

三市合同バスツアー

- と き 平成25年12月8日（日）
- と ころ 中宿歴史公園（深谷市）、三軒屋遺跡（伊勢崎市）、新田郡衙（太田市）

深谷市・伊勢崎市・太田市には、古代の役所跡の遺跡があります。これら3市で古代の役所跡を巡るバスツアーを実施いたしました。およそ90名の参加者は、それぞれの遺跡を巡り、説明に耳を傾けて下さいました。



三軒屋遺跡（伊勢崎市）の発掘現場にて



中宿歴史公園（深谷市）の復元正倉にて



新田郡衙（太田市）の発掘現場にて



にっ た ぐん が げん ち せつ めい かい

新田郡衙現地説明会

- とき 平成25年12月14日（土）
- ところ 太田市新田小金井町地内
（新田郡衙発掘調査現場）

平成25年度新田郡衙発掘調査の成果について、市民のみなさんに公開するための現地説明会を開催いたしました。301名の見学者は渡された説明会リーフレットを見ながら熱心に説明を聞いて下さいました。



パンフレット



説明会風景（南から）



説明会風景（東から）

たかばやしほんごういせき

高林本郷遺跡

- 調査場所 太田市高林南町地内
- 調査期間 平成25年6月4日～8月2日
- 調査面積 約400㎡

宅地造成に伴って、道路を建設する部分の発掘調査を行いました。その結果、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡26軒が重なり合った状態で発見されました。この他に、近世以降の掘立や礎石建物跡なども発見されました。また、遺物も多数出土しました。

周辺には、群集墳が多く見られることから、この土地で多くの人々が古代から暮らしていたことが窺えます。



土器出土状況

てんらしちどういせき てらいはいじ

天良七堂遺跡・寺井廃寺

- 調査場所 太田市天良町地内
- 調査期間 平成26年2月6日～平成26年3月27日
- 調査面積 約850㎡

宅地分譲地の道路建設部分について、発掘調査を行いました。その結果、古墳時代から平安時代までの住居跡24軒、井戸2基、溝4条、土坑7基、が検出されました。また、同時代の遺物が多数出土しました。

特に溝は、寺井廃寺の区画溝と考えられる遺構で注目されます。溝の幅は、1.5m、深さは0.5～1m程です。また、井戸の内の1基は、幅3mほど、深さ0.5mほどの方形の掘り方の内側に、円形の井戸を掘るという特殊な遺構でした。



寺井廃寺に関わる溝、井戸（J区2号井戸、5号溝）西から



かみしんでん いせき せら だか かんごうしゅうらく

上新田遺跡・世良田環濠集落

- 調査場所 太田市世良田町地内
- 調査期間 平成25年6月17日～12月2日
- 調査面積 約1,166㎡

県営のほ場整備事業に伴い、上新田遺跡と世良田環濠集落の発掘調査を実施しました。

上新田遺跡では、中世以降の溝4条、竪穴状遺構1軒、井戸16基、土坑19基、ピット11基が検出され、同じ時期に使われた農具、漆器椀、瓦、青磁破片なども出土しました。

世良田環濠集落では、中世以降の溝17箇所、井戸20基、土坑47基、ピット44基を検出し、古銭や板碑などが出土しました。

世良田環濠集落の溝の多くは、地表から2mほどの深い溝で、環濠の堀であったと推測されます。



上新田遺跡の遺構確認状況



上新田遺跡の井戸から出土した木製品



世良田環濠集落全景



世良田環濠集落の区画溝

しも た じま い せき

下田島遺跡

- 調査場所 太田市下田島町地内
- 調査期間 平成25年7月30日～8月9日
- 調査面積 約30㎡

個人住宅の建設に伴い発掘調査を実施しました。その結果、住居跡1軒と土坑2基が検出され、ここから奈良・平安時代の土器片が出土しました。



発掘調査状況



むこう や べ い せき みん かん かい はつ

向矢部遺跡（民間開発）

- 調査場所 太田市只上町地内
- 調査期間 平成25年4月3日～4月15日
- 調査面積 約178㎡

倉庫の建設に伴い発掘調査を実施しました。その結果、奈良・平安時代の住居跡3軒、ピット5基、土坑2基、溝2条が検出され、遺構と同時期の土器片が出土しました。

今回の調査地周辺でも住居跡が多数検出されていることから、規模の大きい集落であったと考えられます。



住居跡、溝調査風景

にし や じま こ ふん ぐん みん かん かい はつ

西矢島古墳群（民間開発）

- 調査場所 太田市南矢島町地内
- 調査期間 平成25年5月23日～6月5日
- 調査面積 約1,050㎡

店舗の開発に伴い発掘調査を実施しました。その結果、平安時代の住居跡2軒、古墳時代の円形周溝墓の周堀1箇所、古墳の周堀1箇所、時期不明の土坑3基、ピット1基が検出され、円筒埴輪の破片や平安時代の土器片が出土しました。

調査地は、九合村49号墳という古墳の推定地で、建物によりほとんど破壊されていましたが、わずかに周堀の跡が確認されました。



円形周溝墓、住居跡調査風景

はま ちょう い せき こう きょう かい はつ

浜町遺跡（公共開発）

- 調査場所 太田市浜町地内
- 調査期間 平成25年12月2日
～平成26年2月5日
- 調査面積 約160㎡

区画整理事業に伴う市道開発予定地で発掘調査を実施しました。その結果、住居跡5軒、溝6条、土坑25基、ピット8基が検出され、奈良・平安時代の土器片や盾形埴輪の破片などが出土しました。



調査区全景（完掘）



ちょうふく じ い せき こう きょう かい はつ

長福寺遺跡（公共開発）

- 調査場所 太田市下田島町地内
- 調査期間 平成26年1月7日～1月23日
- 調査面積 約180㎡

区画整理事業に伴う市道開発予定地で発掘調査を実施しました。その結果、溝3条、土坑21基、ピット41基が検出され、中世の土器片が出土しました。

また、調査区の北壁で古墳時代の高坏や甕などが大量に出土しており、付近で祭祀が行われていたことが推定されます。



遺構確認状況

まい ぞう ぶん か ざい さい しん じょうほう てん

平成25年度 埋蔵文化財最新情報展

- と き 平成26年2月8日
～平成26年2月23日
- ところ 新田荘歴史資料館 学習室

新田下田中地区工業団地造成事業に伴って発掘調査を実施した新田下田中町の「川久保遺跡・川久保Ⅱ遺跡」内で出土した遺物や写真を公開しました。展示は主に古墳時代の土器を中心とし、117名の方に入場して頂きました。



展示の様子



1号溝 土師器合子等出土状況



展示の様子



しゅつどいぶつせいりさぎょう

出土遺物整理作業

文化財課では、発掘調査の成果を公開するために、出土した遺物の接合・復元作業を行い、遺物の実測・写真撮影等の作業を行っています。平成25年度は、太田市内遺跡や川久保遺跡等のほか、前年度から継続して駒形神社埴輪窯跡や岩松千歳2遺跡、北部スポーツ公園内遺跡群の各調査で出土した遺物の整理作業を実施しました。今年度は、発掘調査報告書『太田市内遺跡9』と『川久保遺跡・川久保Ⅱ遺跡』を刊行しました。



刊行された発掘調査報告書

平成25年度 調査地一覧表

No	遺跡名	所在地	調査期間	開発原因
1	高林本郷遺跡	高林南町	H25.4	民間
2	西矢島古墳群	南矢島町	H25.4	民間
3	内ヶ島南田遺跡	飯塚町	H25.5	民間
4	東部地区遺跡群	岩松町	H25.5	民間
5	下田島遺跡	下田島町	H25.5 H25.9	市
6	東部地区遺跡群	堀口町	H25.5	民間
7	天良七堂遺跡	新田小金井町	H25.5	民間
8	尾島裏組遺跡	尾島町	H25.5	民間
9	上泉開戸遺跡	鳥山上町	H25.6	民間
10	烏屑遺跡	下浜田町	H25.6	民間
11	東山古墳群	金山町	H25.6	民間
12	川窪遺跡	藤阿久町	H25.6	民間
13	通知塚遺跡、糸里制水田想定地	南矢島町	H25.6	民間
14	北之庄遺跡	由良町	H25.7	民間
15	焼山北古墳群	東金井町	H25.7	民間
16	西野西遺跡	藪塚町	H25.7	民間
17	下田島遺跡	下田島町	H25.7	民間
18	北之庄遺跡	由良町	H25.7	民間
19	岡原遺跡	別所町	H25.7	民間
20	FP泥流下遺跡群	安養寺町	H25.7	民間
21	三島遺跡	藪塚町	H25.8	民間
22	浜町古墳群	浜町	H25.8	民間
23	下小林上遺跡	下小林町	H25.9	民間
24	FP泥流下遺跡群	世良田町	H25.9	民間
25	大門遺跡	別所町	H25.10	民間

No	遺跡名	所在地	調査期間	開発原因
26	天神山古墳	内ヶ島町	H25.11	民間
27	東部地区遺跡群	岩松町、阿久津町	H25.9	民間
28	世良田環濠集落、新田館跡	世良田町	H25.9	民間
29	畑中遺跡	強戸町	H25.10	民間
30	東別所本郷遺跡	東別所町	H25.10	民間
31	歌舞伎遺跡・世良田村30号墳	世良田町内	H25.10	県
32	下原古墳群・FP泥流下遺跡群			
33	新島遺跡	只上町	H25.10	民間
34	高林本郷遺跡	高林南町	H25.10	民間
35	西田島遺跡	下田島町	H25.11	民間
36	FP泥流下遺跡群	粕川町	H25.11	民間
37	浜町遺跡	浜町	H25.11	市
38	寺裏遺跡、東山道駅路下新田ルート	鳥山上町	H25.11	民間
39	畦地浦遺跡	只上町	H25.11	市
40	天良七堂遺跡、寺井廃寺跡	天良町	H25.11	民間
41	細谷南遺跡	細谷町	H25.12	民間
42	笠松遺跡	新田小金井町	H26.3	民間
43	西野東中遺跡	藪塚町	H25.12	民間
44	長福寺遺跡	下田島町	H25.12	市
45	東長岡I遺跡	東長岡町	H26.3	民間
46	天良七堂遺跡	新田小金井町	H26.1	民間
47	賀茂遺跡	龍舞町	H26.1	民間
48	向野遺跡、東矢島古墳群	高林寿町	H26.3	民間
49	中道遺跡	鶴生田町	H26.3	民間
50	新田館跡	世良田町	H26.2	民間
51	天良七堂遺跡、寺井廃寺跡	天良町	H26.3	民間

開発に係る調整 平成25年度 事前協議・照合件数 及び調査面積

	公共事業	民間開発	合計
事前照合・協議	28件	1855件	1883件
本発掘調査	7件	4件	11件
確認・試掘調査	6件	45件	51件
学術調査	3件	0件	3件
立会調査	8件	20件	28件
慎重工事	1件	352件	353件
確認・試掘調査面積	1222㎡	3165㎡	4387㎡
本調査面積	1524㎡	1658㎡	3182㎡
学術調査面積	1682㎡	0㎡	1682㎡



新田荘歴史資料館

第3回長楽寺展「長楽寺開山堂の頂相彫刻」

●と き 平成25年10月26日（土）
～12月23日（月）

●入館者 2,259人

長楽寺開山堂には、開山栄朝禅師の像を初めてする頂相が多く保管されており、この内5軀が平成25年に太田市重要文化財に指定されました。

今回の展示では、これを受けて新田荘歴史資料館に寄託されている4軀と開山堂に保管されている栄朝禅師坐像、群馬県重要文化財に指定されている3軀、併せて8軀の頂相と、太田市指定文化財に指定された明王院の木造二天立像2軀なども展示しました。

中でも、栄朝禅師坐像は、鎌倉時代に栄朝禅師の遺骨を混ぜて作られた塑像で、開山堂の外で展示されるのは初めてとなります。この他に、埼玉県都幾川町霊山院の木造栄朝禅師坐像も展示しました。また、同時に毛呂権蔵の著作類なども併せて展示しました。

11月10日（日）には岡部 央氏（太田市文化財保護審議会委員）による講演会「長楽寺開山堂の栄朝禅師坐像」が開かれ、43人が参加しました。

11月17日（日）には、長楽寺の高橋亮秀住職による「長楽寺開山堂と三仏堂」の現地見学会が開かれ、28人が参加しました。



岡部央氏の講演会



高橋住職の現地見学会



長楽寺展ポスター

新春展示「三十六歌仙図」

●と き 平成26年1月2日（木）～2月2日（日）

●入館者 3,273人

世良田東照宮が所蔵する板面著色三十六歌仙図（県重要文化財）を展示しました。世良田東照宮の歌仙絵は、日光東照宮旧奥社の唐門・拝殿及び本地塔の移築に際して奉納されたものと考えられ、筆者は、休泊・源四郎・元俊の3名で、いずれも江戸幕府の御用絵師である狩野派の絵師です。



板面著色三十六歌仙図



第6回企画展「太田を駆け抜けた馬たち」

●と き 平成26年3月8日(土)～5月18日(日)

●入場者 617人(3月31日現在)

馬は、1,500年も前の古墳時代から私たちと深い関わりを持っていました。特に、古墳時代の群馬では、馬は最も重要な動物でした。それは、古墳から出土する馬形埴輪や副葬品の馬具の多さから知ることができます。太田市では、優れた造形の馬の埴輪が出土していることで全国的に知られています。

今回の展示では、11体の馬形埴輪や江戸時代の馬の絵など、古墳時代から近現代までの馬に係わる資料40点を展示しました。

3月15日(土)には、徳江秀夫氏(群馬県埋蔵文化財調査事業団上席専門員)による講演会「群馬県内の馬形埴輪」を行い、39名が参加しました。



企画展ポスター



徳江秀夫氏



はにわ作り教室

●と き 平成25年8月1日(木)・2日(金)
午前9時30分～午後4時

●講 師 榎原宗雄氏

●講師補助 岡本彰子氏

●参加者 12人

●内 容 子どもたちが武人埴輪を作りました。



はにわ作りの様子

茶会所大光庵

この施設は、新田荘歴史資料館の南にあり、数奇屋造りの本格的な茶室です。庭園には外腰掛も設けられ、四季を通じてお茶を楽しめます。平成25年度は8団体の利用登録があり、のべ2,441人の方が利用しました。



大光庵

藪塚本町歴史民俗資料館

ミニ企画展「なつめの里と細川雄太郎」—あのこはたあれ 藪塚本町生まれの詩—

●と き 平成25年10月1日(火)～12月1日(日)

●入場者 202人

藪塚温泉入口にある「なつめの里公園」には、童謡作詩家で藪塚に住んだ細川雄太郎が作った詩「あのこはたあれ」の碑があります。この公園と細川雄太郎について知っていただくため、ミニ企画展を開催しました。



なつめの里公園



展示の様子



縁切寺満徳寺資料館

第28回三くだり半企画展「三くだり半の慰謝料Ⅲ－縁切寺、とくに満徳寺の事例を中心に」

- とき 平成26年3月21日（金）～5月18日（日）
- 入館者 330人（3月31日現在）

現在の離婚慰謝料は離婚原因をつくった配偶者が支払いますが、江戸時代は有責性を問わず、原則として離婚請求者が慰謝料を支払いました。これを「離婚請求者支払義務の原則」といいます。今回は縁切寺での事例を中心に、「離婚請求者支払義務の原則」に従って離婚が成立したことを明らかにするのが本展示の目的です。新たに入手した文書など初めて展示するものを含めて20点を展示しました。



ポスター

徳川大学公開講座（講演会）

「江戸の刑罰Ⅰ－徳川吉宗と公事方御定書」

- とき 平成25年11月30日（土）午後2時から
- ところ 新田荘歴史資料館 学習室
- 講師 高塩 博氏（國學院大学法学部教授）
- 参加者 35人

江戸時代の刑罰に関し、徳川八代将軍である徳川吉宗の時代に編纂された「公事方御定書」の規定を中心にご講演いただきました。



高塩博氏

「江戸の刑罰Ⅱ－男女（身分）と罰則－」

- とき 平成25年12月7日（土）午後2時から
- ところ 新田荘歴史資料館 学習室
- 講師 高木 侃氏（縁切寺満徳寺資料館名誉館長）
- 参加者 32人

江戸時代の刑罰を男女や身分など刑罰に関連する事柄を中心にご講演いただきました。



高木侃名誉館長

「百人一首の世界－遊びつつ学ぶ女性の嗜み－」

- とき 平成25年12月15日（日）午後2時から
- ところ 新田荘歴史資料館 学習室
- 講師 小泉吉永氏（法政大学講師・学術博士）
- 参加者 39人

展示資料についての解説のほか、江戸時代の女子教育にあたり、百人一首が果たした役割を中心に展示資料を説明したほか、イロハの次に学ぶものは百人一首であったこと、親から算術よりも百人一首を覚えるよう教育され、その後商家に嫁いで苦労したことなどの話をしていただきました。



小泉吉永氏

「井上ひさし作『東慶寺花だより』を読む－もうひとつの縁切寺の話」

- とき 平成26年1月11日（土）午後2時から
- ところ 新田荘歴史資料館 学習室
- 講師 高木 侃氏（縁切寺満徳寺資料館名誉館長）
- 参加者 57人

『東慶寺花だより』の内容と東慶寺の縁切寺法を歌舞伎座で開催された松竹大歌舞伎『東慶寺花だより』に関連した話を含めて、ご講演いただきました。



講演会の様子



特別展「百人一首の世界ー遊びつつ学ぶ女性の嗜みー」

- と き 平成25年11月9日（土）
～平成26年1月13日（月）

- 入館者 2,428人

現在では、「百人一首」は競技かるたとして使用されることが多いのですが、江戸時代には庶民、特に女子の教養・嗜み・しつけなどとして広く親しまれ、現代以上に教訓性の強いものでした。この「百人一首」を通じて、当時の教育や文化を学んでいただけるような「百人一首」に関わる多様な資料を展示しました。

【競技かるた実演】

- と き 平成25年11月16日（土）午後2時から
- ところ 縁切寺満徳寺資料館（満徳寺復元本堂）
- 講師 高橋茂信氏（新田かるた会会長）
- 参加者 58人



競技かるた実演の様子

【展示解説会】

- と き 平成25年12月15日（日）午前11時から
- 講師 小泉吉永氏（法政大学講師・学術博士）
- 参加者 19人

徳川大学伝統文化講座「琵琶」

- と き 平成25年11月4日（月・振替休日）
午後2時から
- ところ 縁切寺満徳寺資料館（満徳寺復元本堂）
- 演奏者 琵琶：仁恵依舟（仲林光子）氏
篠笛・能管：仲林利恵氏
- 参加者 98人

縁切寺満徳寺資料館の紹介と文化財愛護思想の普及浸透を図るため、伝統文化講座として仁恵依舟氏に琵琶を、仲林利恵氏には篠笛や能管を演奏いただきました。



演奏の様子

徳川大学大衆文化講座「落語」

- と き 平成26年3月22日（土）
午後2時から
- ところ 宝泉行政センター
- 出演者 柳家はん治師匠・柳家小はぜさん・
のだゆきさん
- 参加者 142人

江戸文化をさまざまな角度から紹介するために、柳家小三治師匠一門である柳家はん治師匠とお弟子さんの柳家小はぜさんに落語を、のだゆきさんには音楽パフォーマンスを披露していただきました。



柳家はん治師匠

夏休みミニ企画「郷土かるた展示Ⅳ（義貞の鎌倉攻め）」

- と き 平成25年7月20日（土）～9月1日（日）
- 入館者 3,474人

新田義貞が鎌倉幕府討伐のため、鎌倉に攻め上がった事柄について、地図や経過などを郷土かるたとともに展示しました。「太田かるた」「新田かるた」「尾島かるた」などの地元の郷土かるただけでなく、攻め上がる際の合戦や主要地点を、地域の歴史として取り上げている「所沢郷土かるた」「武蔵府中郷土かるた」「鎌倉かるた」なども併せて展示しました。



高山彦九郎記念館

企画展「高山彦九郎の蝦夷地への想い —『北行日記』からみた蝦夷地—」

- とき 平成25年3月23日（土）
～6月30日（日）
- 入館者 493人
諸外国、特にロシア帝国の脅威が増していく時代に、彦九郎が蝦夷地について想いめぐらせたことを中心に展示しました。



展示の様子

企画展 「高山彦九郎 五千人の交遊録」

- とき 平成26年3月1日（土）～6月29日（日）
『高山彦九郎日記』に現れる人物は優に5,000人を超えます。その中には、当時一流の学者・文化人がいました。彦九郎が残した「日記」や書簡などをもとに、交流した人物を取り上げることで彦九郎の人物像に迫りました。



展示の様子

講演会

- とき 平成25年5月19日（日）午後2時～午後4時
- 演題 「高山彦九郎の蝦夷地への想い—『北行日記』からみた蝦夷地—」
- ところ 九合行政センター
- 講師 井上 研一郎氏（宮城学院女子大学教授）
- 参加者 67人
アイヌの長老たちが描かれた「夷酋列像」の作者蝦夷松前藩家老、蠣崎波響と彦九郎との交流を画像を用いて分かり易くご講演いただきました。



井上研一郎氏

学習会・見学会

- 【学習会】
- とき 平成25年9月7日（土）午後3時～午後5時
- ところ 高山彦九郎記念館2階（企画展示室・講座室）
- 講師 正田喜久氏（高山彦九郎研究会 会長）
- 【見学会】
- とき 平成25年10月1日（火）午前8時30分～午後5時
- ところ 行田市郷土博物館（忍城跡）、大宮氷川神社ほか
- 参加者 32人
「高山彦九郎 武州中山道の足跡を訪ねる」と題し、高山彦九郎と関わりのある地を訪ねました。



見学会の様子 大宮氷川神社にて



大隅俊平美術館

企画展

開館1周年記念企画展 いにしえ すぐは きらめき — 古の姿と直刃の煌き —

- とき 平成25年11月1日（金）～平成26年1月26日（日）
- 内容 直刀、鉾、横刀等、上古刀を手本とし、大隅俊平が求めた古の姿を再現しました。
- 入館者 1,380人



開館1周年記念企画展ポスター

春の展示

- とき 平成26年2月1日（土）～4月20日（日）
- 内容 オールドツクスな刀剣を中心に展示しました。
- 入館者 474人（3月31日まで）



春の展示案内ポスター

実演

銘切実演

- とき 平成25年5月5日（日）午前10時～12時、午後1時～3時
- 内容 本田正紀刀匠（大隅俊平弟子）による実演と、プレートに銘を切り、子供たちにプレゼントしました。
- 参加者 2回で95人



王朝装束着装実演



- とき 平成26年1月26日（日）午後1時～2時30分
- 講師 (財)民族衣装文化普及協会群馬県支部長金井美由紀さん
※モデルはミス太田の杉山さん、ミス八瀬川の岡田さん
- 参加者 80人

講座・講演会

花結び(総角結び)講座

- とき 平成25年6月16日（日）午後1時～3時
- 内容 古くから伝わる花結びの中から「総角結び」を体験しました。
- 参加者 45人



刀匠大隅俊平が目指した至高の美

- とき 平成25年11月3日（日）午後1時～2時30分
- 講師 小林暉昌氏(元(財)日本美術刀剣保存協会常務理事)
- 参加者 48人





史跡金山城跡ガイダンス施設

体験学習

内容	月 日	回数	講 師	参加者数
草木染め教室	5/18・6/22・7/27・9/28(染め)・ 10/19・20(織り)・12/8	6回	板野千恵氏	60人
ハーブを育てる	4/25	1回	宮森美奈子氏	10人
消しゴムはんこ教室	6/27・11/14	2回	松井悦子氏	22人
金山城跡を歩く	5/28・11/15	2回	職員	31人
篆刻体験教室	9/14・9/21	2回	龍舞篆会	20人
焼物体験教室	9/10・10/1	2回	大沢正義氏	20人
まが玉教室	開館日随時受付		職員	258人



消しゴムはんこ教室作品



ハーブを育てる



焼物体験教室



金山城跡を歩く

歴史講演会等

第11回金山歴史講演会

- と き 平成25年4月21日(日)
- 講 師 板橋春夫氏(國學院大學非常勤講師)
- 演 題 「新田猫と養蚕」
- 参加者 40人



第12回金山歴史講演会

- と き 平成25年6月30日(日)
- 講 師 小野正敏氏(人間文化研究機構理事)
- 演 題 「お城は槍や鉄砲だけでは守れない」
- 参加者 77人



第13回金山歴史講演会

- と き 平成25年12月15日(日)
- 講 師 青木裕美氏(群馬県立新田暁高等学校教諭)
- 演 題 「由良・長尾兄弟と金山城」
- 参加者 66人



ギャラリートーク

- と き 平成26年2月22日(土)
- 講 師 岩崎靖彦氏(彫刻家)
- 内 容 「仏教彫刻の材料と技法等」
- 参加者 29人





ギャラリー展示

広く文化や歴史に触れていただく機会を持てるよう企画展示を行っています。



太田から見える山々



「金山城跡・大手道展」ポスターの写真



大和古印と篆刻



木彫展 ～ 現（うつつ）～

企画展名	期間	来場者
新田家の絵画 ～猫絵を中心に～	3月16日～ 5月 6日	2,979人
太田から見える山々	5月18日～ 6月30日	3,494人
金山城跡・大手道展	7月13日～ 8月25日	3,216人
大和古印と篆刻	9月 7日～11月 4日	2,616人
第1回 金山城保存会「城跡を巡る」	11月16日～ 1月13日	2,514人
木彫展 ～ 現（うつつ）～	1月25日～ 2月23日	988人

文化振興事業 落語会

ガイダンス施設を日本古来の伝統文化発信地としていくことを目的として2回の落語会を開催しました。

- とき 平成25年10月4日（金）
- 出演者 鈴々舎 馬桜
- 参加者 85人



- とき 平成25年11月29日（金）
- 出演者 鈴々舎 馬るこ
- 参加者 44人